

自然破裂を起こした 巨大 multilocular cystic nephroma の 1 例

馬場 義郎 佐藤 元 柳岡 正範
笠原 正男¹⁾

静岡赤十字病院 泌尿器科
1) 同 病理部

要旨：症例は 24 歳男性。半年前から腹部膨満を自覚していたが放置。今回突然の腹痛を主訴に救急病院を受診し、腎嚢胞破裂疑いで当院に転院となった。腹部 computed tomography(CT)で隔壁様の構造を持つ巨大腎嚢胞が認められ、腎嚢胞破裂と診断した。緊急手術も考慮に入れながら、保存的に経過をみたが、数時間後にショック状態となり死亡した。病理解剖では multilocular cystic nephroma の破裂による出血性ショックが死因と考えられた。

Key word：multilocular cystic nephroma, 自然破裂

I. はじめに

multilocular cystic nephroma は比較的まれな良性の腎腫瘍であり、その中でも自然破裂の症例の報告は少ない。我々は巨大 multilocular cystic nephroma の自然破裂を経験したので報告する。

II. 症 例

患者：24 歳男性

主訴：腹部膨満、腹痛

既往歴：左鼠径ヘルニア術後

現病歴：約半年前から腹部膨満を自覚。数ヶ月前からは周囲からも腹部全体の膨隆を指摘されていたが放置していた。2007 年 11 月に突然の腹痛出現し近医救急病院受診となる。腹部 CT で右腎嚢胞破裂を疑われ、当院へ紹介搬送となる。

現症：血圧 113/75 mmHg, 体温 35.7°C, 心拍数 113 回/分, 呼吸数 52/分, 酸素飽和度 95% (2L カメラ) 腹部は著明に膨満し、全体に圧痛を認めた。

検査所見：WBC 21800 /ul, Hb 17.3 g/dl, BUN 26.9 mg/dl, Cr 1.8 mg/dl, CRP 0.23 mg/dl 末満画像所見：腹部 CT で腹部臓器を左方に著明に圧排する多房性嚢胞性病変ならびに大量の腹水を認める(図 1)。

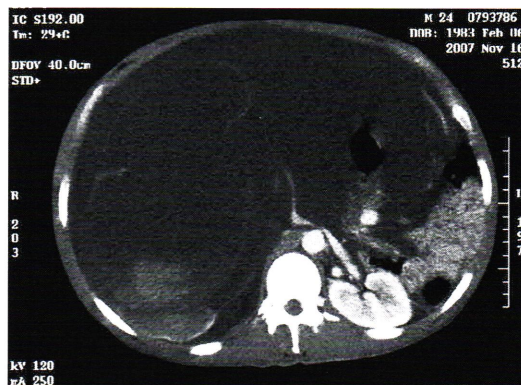


図 1 腹部 CT

経過：腹部 CT より多量の出血が予想されたが、救急外来でバイタルサインは安定していたため、輸血や麻酔体制の準備を進めながら、緊急手術も視野に保存的に経過をみた。入院後まもなく容態が急変しショック状態となった。塩酸ドパミンの投与、心肺蘇生術を行うも反応なく、来院約 6 時間後に死亡した。

病理解剖では、開腹すると内部が血液で満たされた巨大な嚢胞性病変が腹腔内を占拠していた(図 2)。嚢胞内腔面は上皮細胞に被覆され、その被覆上皮に異型性はみられなかった。出血の責任血管は明らかではなかった。上皮細胞は定型的な hobnail 細胞

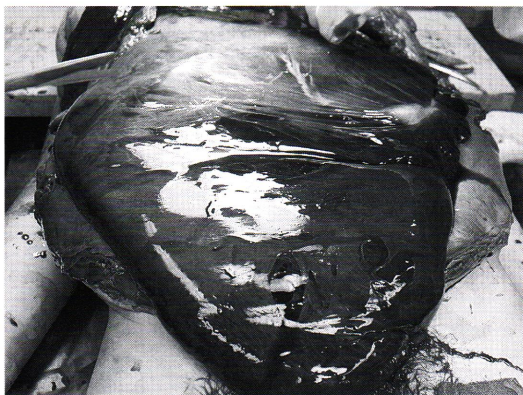


図2 開腹所見

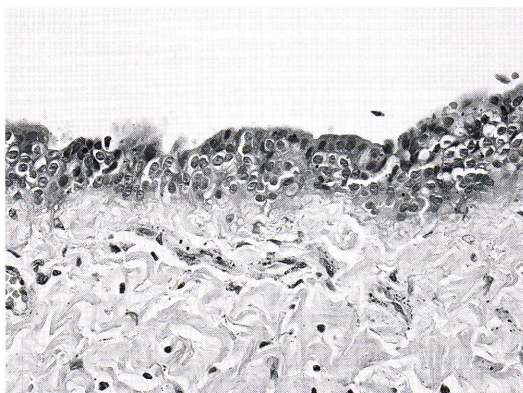


図3 嚢胞内腔面 H-E 染色 ×400

ではなく、尿路上皮に近い形態であった(図3)。身体所見や病歴、画像所見と併せ、multilocular cystic nephroma の自然破裂と診断し、死因は出血性ショックが考えられた。

Ⅲ. 考 察

multilocular cystic nephroma は比較的まれな良性の腎腫瘍で、片側の腎の一部に多房性の嚢胞が集簇したものである。症状としては小児では無痛性側腹部腫瘍、成人では側腹部痛、尿路感染、高血圧、血尿などである¹⁾。診断基準としては1951年にPowellらが発表したものが広く用いられている²⁾。具体的には(1)片側性(2)単発性(3)多房性(4)腎盂-嚢胞間に交通がない(5)房どうしに交通がない

(6)房は上皮細胞に裏打ちされている(7)腫瘍内部に腎臓成分が含まれず(8)正常の腎組織が存在する、といった項目がある。この疾患の頻度は明らかではないが小児期の男児や中高年の女性に多くみられる¹⁾。小児においてはnephroblastomaが、成人においては腎細胞癌の合併することもあるため、外科的摘除の対象となる。悪性所見があっても腎被膜外浸潤がほとんどなく、悪性度もlow gradeのことが多いため、根治術を行えば予後は比較的良好である³⁾。

自然破裂の報告をMEDLINEで検索したところ、2002年のFUJIMOTOらの1例⁴⁾しか確認できなかった。この症例では来院時に活動性の出血はおさまっており、6日後に待期的に手術が行われた。本症例における嚢胞性病変は血液成分が流出した状態で22×12cmの広がりをもっており、出血量は少なくとも2000ml以上はあったと推定された。FUJIMOTOらの症例と比較し本症例の嚢腫がより巨大で多量の出血があったと思われる、たとえ緊急手術を行えたとしても救命し得たか確信がもてない。

Ⅳ. 結 語

Multilocular cystic nephroma は良性の腎腫瘍として知られ、摘除術を行えば予後は比較的良好と言われている。本症例は巨大な嚢胞が破裂し、腹腔内には既に相当量の出血があったため、数時間という時間単位で症状が増悪し不幸な転帰をたどったと考えられた。

文 献

- 1) 丸山修, 堀江重郎. 悪性腫瘍と鑑別が困難な腎病変. 臨泌 2004; 58(12): 919-22
- 2) Powell T, Shackman R, Johnson HD. Multilocular cysts of the kidney. Br.J.Urol. 1951; 23: 142-152
- 3) 松下靖, 鈴木薫, 藤岡知昭, ほか. 嚢胞状腎癌の4例. 泌紀 1997; 43: 719-22
- 4) K Fujimoto, et al. Spontaneously ruptured multilocular cystic nephroma. Int. J. Urol. 2002; 9: 183-186

Huge multilocular cystic nephroma ruptured spontaneously

Yoshiro Baba, Hajime Sato, Masanori Yanaoka,
Masao Kasahara¹⁾

Department of Urology, Shizuoka Red Cross Hospital

1) Department of Pathology, Shizuoka Red Cross Hospital

Abstract : A 24-year-old man had been aware of his abdomen bloating for about half a year. One day he had unbearable abdominal pain suddenly. Computed tomography showed a huge multilocular cystic structure, and we diagnosed rupture of huge renal cyst. We chose conservative treatment taking into consideration of performing emergency operation. A few hours later, he became shock. We attempted to keep him alive, but he died. We performed autopsy and microscopic examination. It is considered that rupture of multilocular cystic nephroma caused him hemorrhagic shock. In our search, there are few reports of spontaneous rupture of multilocular cystic nephroma as yet.

Key word : multilocular cystic nephroma, spontaneous rupture



連絡先：馬場義郎；静岡赤十字病院 泌尿器科

〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2 TEL (054) 254-4311